

2003年 4月15日発行（隔月刊）



# う 羽 化 か

2003年4月  
第 37 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
 編集責任者 宇 田 川 幸 子



## 目 次

視覚障害者の読み書き－漢点字の必要性－（岡田 健嗣）	1
連載「点字から識字までの距離」（34）（山内 薫）	9
東洋医学について（小池上 惇）	15
ご報告とご案内	17
漢文のページ	21
イラスト版「漢点字ってどんな字？」（35）	23
「横浜漢点字羽化の会」規約	I
平野久美子と短歌鑑賞	30

本号では、連載「点字の読み辛さと漢点字の触読について」は休載させていただいて、去る二月四日（火）、東京都教職員研修センター分館視聴覚ホールで催された東京都図書館職員研修会にお招きいただいた折りにお話ししたものを、掲載させていただきます。

東京都図書館職員研修会

二〇〇三年二月四日

## 視覚障害者の読み書き

### ―漢点字の必要性―

横浜漢点字羽化の会

岡田 健嗣



## 自己紹介

おからだげし  
岡田健嗣と申します。

漢点字の点訳をしておりますボランティア・グループ、「横浜漢点字羽化の会」の代表を務めております。

本会で、漢点字の文書を編集したり、打ち出したりするソフトの開発や、会の運営でご尽力いただいている木下さんから、後でお話をさせていただきます。

私は盲学校で教育を受けました。盲学校では漢字を教えませんが、先天的な視覚障害者がその知識を得ること

は、ほとんど不可能です。私もそうでした。二十年あまり前に初めて漢点字に出会って、漢字という文字がどういう文字であるかを知ったのでした。このように、私たち視覚障害者が、文字の世界から疎外されている状況にあった、現在もあまり変わってはいないのですが、そのことを、先ずご存じいただきたいと思えます。

## 識字

文字を知らない人を、かつては「文盲」と呼んでいました。江戸幕府では、高札による通達を読ませるために、民百姓に最低限の文字を学ばせることが推奨されました。そうして一般への文字の普及が進みました。

明治維新後、欧米に追いつくために富国強兵の政策のなかに、識字教育がありました。当時の建国思想には、文字が大きなウエイトを占めていたのです。

しかし、文字の読めない人もいました。それは国の役に立たないと考えられていた人、それには多くの女性が含まれていました。私のような身体障害者は、なおのこと役に立たないと考えられましたので、教育は、特殊な場合を除いて、形ばかりのものでした。

戦後には、いわゆる「機会均等」、「法の下での平等」という考え方が一般化して、識字教育が進んで、男女には、そ

の差がなくなりました。一昨年、統計局に我が国の識字率をたずねたところ、 $66.8\%$ パーセントという答えをいただきました。算出方法は、十五歳以上の成人で、初等教育を受けた人の割合とのことでした。その意味では、私たちがのように、漢字の教育を受けない者でも、盲学校という学校で、初等教育を受けた者も、識字率の中に数えられているのです。

このようにして、日本では、〈識字〉は一応達成されたと考えられていますが、世界的には、文字の普及がまだ充分でない地域が沢山あります。大変大きな問題と考えられています。といいますのは、現在の理念として〈識字〉は、〈生存権〉の一部と考えられているからです。

## 「漢字」と日本語

「この項は、当日配布したレジュメに添って進めます。」

### 1 音標文字と表意文字

(1) 音標文字 (表音文字) || 音素と音節・言語の最小単位を音素として、それを表した文字。

代表はアルファベット。

(2) 表意文字・一つの文字が意味を表す文字。

代表は、漢字。

## 2 漢字

1. 漢字の発生 || 殷墟における甲骨文字・既に現在の漢字の性格を持っていた。

(象形、指事・仮借・会意・形声)

2. 漢字の特徴 (1)

a. 単音節 || 漢字一文字は一音節

b. 意味を持っている || 漢字一文字は一つの単語

2. 漢字の特徴 (2)

a. 六書 || 象形・指事・会意・形声・仮借・転注

b. 形・音・義 || 意味符号と音符号 ↓ 形と読みと意味の一連性

## 3. 我が国と漢字

(1) 漢字の渡来 || 一七世紀・朝貢・冊封関係 || 漢、魏、隋、唐への隷属。

(2) 漢字の消化 || 漢字音の日本語化・現在の漢字音の基礎。

(3) 仮名文字の発明 || 万葉仮名・記・紀・万葉 || 字音仮名と字訓仮名 ↓ 片仮名と平仮名 (漢文読み下しと仮名文学) ↓ 漢文脈 (公文) と和文脈 (私文) の二大潮流。

(4) 音読と訓読

音…漢音・吳音・唐宋音（日本語音による音読み）

訓…日本語読みされた漢字

#### (5) 現代の漢字の読み

〔同音異字〕

貴社の記者が喜捨して汽車で帰社した。

〔同訓異字〕

行く 往く 征く 逝く

有る 在る 存る 生る

受ける 享ける 請ける 承ける

〔同音・同訓異字〕（カン、みる）

観 看 監 瞰

### 4. まとめ

私たちが使っている日本語は、カナ文字だけで表記することができます。それどころか、アルファベットのローマ字でも、表記できます。

しかし、話し言葉も含めて、私たちの使っている日本語は、〈漢字〉の裏打ちを除いては成立しません。欧米の言語と異なつて、音よりも、文字の表す意味に、大きく依存しているからです。その一つの例として、日本語の「開音節構造」（必ず子音の後ろに母音が置かれる、子音と母音が交互に置かれる構造）が挙げられます。現代の日本語の母

音は五つですので、音節の数は、一〇〇あまりしかありません。そのために、同音・同訓異語が多くなるのです。従つて、日本語から漢字を排除するのは極めて困難、恐らく不可能であろうと思われまますし、〈識字〉を達成するといふことは、〈漢字〉を習得することを意味しているといふのです。

### 視覚障害者にとつての文字とは何か？

【点字の創案】…点字はフランスのルイ・ブライユが一八二五年に創案しました。ブライユの点字は六つの点、縦三点、横二列の構造を持っています。六つの点の組み合わせは、スペースを含めて六十四通りになります。アルファベツトは二十六個ですので、十分表現できました。このように最小限の点の組み合わせで文字を表そうとしたのが、ルイ・ブライユでした。当初は、これを文字と認める人は極めて少なく、盲学校の先生方を中心に、排斥の気運が強かつたと伝えられています。

一八六〇年代には、欧米の各国に普及が進み、各国語に対応した表記法が研究されました。このようにして欧米の視覚障害者は、文字を手にし、本を読むことができるようになった。

【我が国への点字の導入】…日本では、明治維新後、

欧米の文化・文物の一つ、教育理念の一つとして、点字が移入されました。当時、東京盲学校で視覚障害者を指導しておられた石川倉次先生が翻案されたのが、現在使われているカナの点字です。

明治維新は一種の大衆化でもありました。明治には身分制度が崩壊し、庶民の力が強くなりました。それまで武士を中心とした知識階級が独占していた文字の世界も、〈識字〉の推進が理念として、大衆化の波に乗って、全国へ広まって行きました。しかし一方、漢字は難しいとして、カナ文字運動やローマ字運動が起き、漢字を排斥しようという力も高まりました。石川先生もこのカナ文字運動に参加されて、点字には漢字は必要ないとされたのでした。

そのような運動にもかかわらず、公教育の充実と、活字メディアの隆盛によって、一般への漢字の普及が目覚ましく、カナ文字だけ、あるいはローマ字での表記の試みは、ごく一部に留まりました。しかもこのような運動を担った人々は、社会の指導的な立場の人で、普段は漢字を使っていたのでした。

このようにして、今日まで漢字を知ることなく来た、〈非識字〉の状態に置かれているのは、視覚障害者だけとなったのでした。

**【漢点字の誕生】**…〈漢点字〉の創案者・川上泰一先生が、大阪府立盲学校に赴任されたのは、戦後間もなく

のことでした。盲人（視覚障害者）の使っている点字に漢字がなくカナ文字だけだったことを初めてご存じになって、大変驚かれたのでした。そこで漢字を表す点字が必要とお考えになって、二十年を超える研究の後、ようやく当時の当用漢字（千八百字あまり）の『漢点字』を完成されたのでした。その後先生は、全国の視覚障害者に希望を募って通信教育を行って、漢点字の普及に努められました。

## 漢点字の紹介

**【漢点字の基本構造】**…たとえば、「今日は」のように日本語は漢字カナ交り（漢字とカナ文字が交互に配列された構造）になっています。「今」と「日」は漢字で「は」がひらがなです。これは改めて言う必要のないことのようにですが、実は、大変特異な構造だと言えます。カタカナ、数字、アルファベット、記号、ハングル文字など、世界で用いられている文字を交えてもかまいません。

このような日本語の文書を表すために、漢点字はカナ点字（**⦿**）（六つの点）と直ぐに区別できるように八つの点（**⦿⦿**）で表しています。上二つの点が漢点字を示す点です。一マスで表せる漢点字は五十七個あります。先ずこの五十七個の漢点字が、基本的な文字となります。これらを組み合わせ、他の文字が作られますが、これは、一般の

漢字の構造と同じ考え方を採っているからです。

例えば、一マスの漢点字「木<sup>●●●</sup>」と「目<sup>●●●●</sup>」の点字を合わせて「相<sup>●●●●●●●●</sup>」の二マスの漢点字ができます。この二マスの漢点字では、一マス目「木」の左上に漢点字を表す符号を一つ(●●●)、二マス目「目」の右上に符号を一つ(●●●●)打ちます。するとここからここまでが一つの文字であると、一つの文字の範囲を表します。さらに、「相」に「心」がつくと「想」になりますが、漢点字では「目<sup>●●●●</sup>」を略して「木<sup>●●●</sup>」と「心<sup>●●●●</sup>」で「想<sup>●●●●●●●●</sup>」を表します。

もう一つ例を挙げれば、「田<sup>●●●●</sup>」と「木<sup>●●●</sup>」を組み合わせて「果<sup>●●●●●●●●</sup>」という二マスの漢点字ができます。ご覧のように、漢点字は縦の並びは表現できません。そこで「相」と同様に、横に並べて表します。これに「言<sup>●●●</sup>」をつけますと「課<sup>●●●●●●●●</sup>」となって、「木<sup>●●●</sup>」を省略して、二マスで表します。

漢字の部首の数は二百以上あります。点字の符号には限りがありますので、漢点字では、一つの点字符号でいろいろな部首を表さざるを得ません。

【漢点字変換・編集・打ち出し用ソフトウェア、**IBRKW**について】(木下和久) 漢点字羽化の会で岡田さんと一緒に活動をしている木下です。横浜漢点字羽化の会はボランティア団体で、岡田さんを通して届け

られるニーズに応える形で活動をしています。(識字)を、文章を自由に読んだり、書いたりすることと解釈するならば、視覚障害者にとつての現状(漢字の知識を持ってない)状況は完全な「識字」ではないと考えています。

私は羽化の会で、漢字カナ交じりの文章を漢点字の文章に、コンピュータを使って変換するためのソフトウェアの開発を行っています。そのためには元になるデータが必要でした。まず、漢字と点字の符号の対応表を作らなくてはなりませんでした。「ISCコードの第一水準、第二水準の漢字を合わせますと六千三百五十五個になります。この文字と漢点字符号を、岡田さんが入力することからこの作業は始まりました。私はそのデータを使って、ソフトウェアの開発を行いました。この場で漢点字の説明に使っている「点字テキストコンバーター」というソフトウェアもその一つ、「**IBRKW**」を変形したものです。「**IBRKW**」は、レジメにある「漢点字の<sup>●●●</sup>と<sup>●●●●</sup>」を例に挙げて説明しますと、普通の文章が画面右側に表示され、これを漢点字に変換すると、画面上側に漢点字の符号が、下側にはそれに対応したテキスト文字が表示されるようになっていきます。このとき画面の表示で一つ調整をする必要がありました。テキスト文字を点字符号に変換しますと、点字の符号の方が数が増えてしまうことでした。そこでここでは上下の関係が対になるように、テキスト画面に、調整用

の記号を挿入してあります。これは、点字プリンターで印刷したときのイメージを画面に表示しようと考えたことに由来しています。

またこの「EIBRKW」は、ピンディスプレイに接続して、漢点字文を表示させることができます。その表示を触読しながら、文章を書いたり編集したりすることができません。すなわち、所期の目的であったテキスト文を漢点字文に変換して、漢点字の文書を作成して、点字プリンターから打ち出すこととは反対に、点字プリンターに送るデータを、ピンディスプレイに送って、その表示を頼りに、文書を作成するという、エディタとしての利用も、大きなウェイトを占めるようになりました。テキスト文から漢点字文へ、漢点字文からテキスト文へと、相互に変換しながら、応用の範囲を広げているところです。

## 図書館に期待すること (岡田)

1. ノーマライゼーションの徹底とバリア・フリー化：視覚障害者の利用に配慮していただくなら、そのニーズの出所をご存じいただかなければなりません。ノーマライゼーションとはその意味で、「よく聞く」ということに尽きるのではないのでしょうか。これまで私が抱いた不満は、集約すれば、その一つで解消するように思われます。また、バリアーとは「障壁」と訳されますが、

「保護膜」である場合も少なくありません。障害者が、一方でバリア・フリーを訴えつつ、具合が悪くなること、そのバリアに隠れるということも少なくありません。この辺りを、よく見定めることが、よいサービスにつながるのではと思っております。

2. マーケットからの情報提供の限界への対処：コスト意識と言ふことと思います。視覚障害者にとつて、書店や図書館で本を手にしてみても、真の書物に触れていることにはなりません。それが読める状態になって初めて(書物)となるのです。その作業プロセスのコストを、誰が負担するか、また、その作業を誰が行うか、ということです。このことは、既に決まっていることのようにあつて、実は、その都度悩まなければなりません。それが現状です。ここで一つだけ明らかかなことは、このサービスは、市場には求められないということです。

3. ニーズの多様化と専門化への対処：視覚障害者も、高学歴化と活動領域の広範化が進んでおります。いきおいそのニーズも同様の変化を見せております。しかし、サービスは、それに追いついていないとは言えそうもありません。その主な理由を考えますと、ニーズを受け付ける現場に、ノーマライゼーションの行き届いた、また書籍の知識の行き届いた、責任のある回答の

できる職員が、少なくともなっているのではないかと感じているということです。

今後は、漢点字のニーズも含めて、色々なニーズに備えていただきたいと願っております。

### 〔質疑応答〕

質問：「点字テキストコンバータ」のソフトの入手方法と

点字のプリンターはどこから購入できるか、最後に点字の文書を逆にスキヤナーで読み取って普通の人

が読めるようにする方法は無いか。

答：「点字テキストコンバータ」はフリーで使つて結構です。プリンターは基本的に八点が打てるのが理想的ですが、使うには漢点字のフォントをインストールする必要があります。私どもで使用している点字プリンターは、スウェーデンのインデックス社(株)から輸入したBASIC-D、BRAILLE-EVERESTの二機種です。国内で開発・販売しているものは、六点のみ打ち出せる、「TR社(株)「ESAT2」」と、八点にも対応している日本テレソフト社(株)「TOP3」でも打ち出せるようになりました。この二機種は漢点字のフォントを使ったものではなく、グラフィック・モードでの打ち出しです。従つて今直ぐにも使えます。

点字用紙に打った漢点字の文書を墨字に変換するのは、現在のところ残念ながら出来ません。

### 〔付記〕 (岡田)

二〇〇三年二月四日に催された、東京都図書館職員研修会にお招きをいただきましたことに、深く御礼申し上げます。下手なお話で、皆様のお耳を汚しましたことに、大変申し訳なく存じます。このような機会に恵まれたことは、極めて幸運と申さなければなりません。

ご出席の皆様からのアンケートを拝見して、なるほど思わされたことがございます。

この企画をお伺いして、当初から何をお話するのがよしいか、大変悩みました。と申しますのは、お話ししたいことを全てお話するには、時間が足りない、何回かに分けてお話させていただけないものか、また、誠に不慣れなものですので、うまくご理解をいただけるものか心配だ、と思つてのことです。

アンケートの中に、聞きたいところが聞けなかったというお声が幾つかございました。これはもつともなことと思つております。

今回は、漢点字のお話は従として、主なところは、(識字)に当てました。その理由をここで繰り返す必要はないものと存じますが、これまでに視覚障害者と漢字について



お話をしますと、「視覚障害者には漢字は難し過ぎるのではないか?」「点字で漢字を表すなんて無茶だ。」「他にもやらなければならないことが山ほどあるのに、漢字の勉強までやらせるのか?」といった声を頂戴して来ました。

そういう訳で今回は、視覚障害者の識字の状況と、日本語と漢字の関係をメインにお話することに致しました。ノーマライゼーションの立場から見れば、この日本の教育の状況は、明らかにダブル・スタンダードであることをご理解いただいて、この状況の変革にご尽力いただける方が、お一人でも多くお出でになることを願って止みません。

一つ残念でならなかったことは、都の図書館には、四名の視覚障害者の職員の方がお出でになるとお聞きしておりましたが、お一人のご出席もいただけなかったことです。是非とも図書館のサービスと漢字について、その提供者者として、また享受者として、二重の当事者としてのご意見を聞かせたいと思います。

視覚障害者の現状は(非識字)と言えますが、それを克服することは、困難ではあっても、不可能ではありません。是非ともサービスの充実のためにも、この状況を脱却すべくご努力をお願いしたいものと存じます。

(以上、研修会実行委員会から)ご提供いただいたものに、補筆致しました。)

※この三月、二度(十九・二十七日)に渡って都立中央図

書館(東京都港区南麻布五〇七―一三、電話〇三―三四四二―八四五―)の視覚障害者サービスの係へお電話をしてみました。漢点字のサービスについて、どの程度お願いできるかをお尋ねする積もりでしたが、その前に、現在同館では、予算の関係で、点訳サービスは年間二タイトルだけとなっていて、二人の利用者に一タイトルずつのサービスを行っている状態とお話を承りました。従って、漢点字でのサービスを考える前に、サービスそのものの限界から、これ以上のニーズを受けることは不可能である旨、伺ったのでした。

そこで仮に漢点字でのサービスをニーズとして受けるとした場合、どのように実現していただけるかをお尋ねしてみました。

「同館では、点訳・音訳のボランティアを養成はせず、他の機関で養成され、活動しているボランティアに、点訳・音訳の作業を委嘱している。漢点字でのサービスを考えた場合も、そのように、漢点字訳のボランティアを探して委嘱することになるはずである」とのお答えをいただきました。

このお答えをまだ数少ない漢点字訳のボランティアの現状に当てはめてみますと、中央図書館へニーズを出すことで、同館のお仕事として漢点字書を製作していただけることになる反面、新たなボランティアの方が誕生する訳では

ないので、その分、他のニーズに比べられなくなるという、ゼロサムな状況に図書館が参入する結果をもたらすことが分かります。

迂闊にもここで初めて気付かされたことですが、実は行政はこれまでボランティアの養成は全く行つて来なかつたことです。現在もそれに変わりはありません。正に市民が自発的に作り上げた活動を、その時のニーズの高さによって、ボランティアとして受け入れて来たというのです。視覚障害者へのサービスのボランティア活動を見ますと、点訳と音訳という読書に関するサービス、歩行誘導という移動に関するサービスになります。この際重要とされるのは、その時のニーズの量であつて、〈基本的人権〉とか〈生存権〉とか、まして〈識字〉の権利などではありません。本会の活動のように、漢点字訳のサービスとなりますと、そのニーズに限りがあつて、広範囲に「理解をいただくことが難しい、そのために自発的な養成活動にも困難が伴うような活動は、行政にはまず顧みられることがありません。これは日本の視覚障害者にとつて、冷厳なる現状なのです。

一般に、漢字教育を受けるのは、日本の国民の権利と言われていますが、こと視覚障害者については、希望する者が独力で学ばよ、とされている現状に、もう一度立ち返つてみたいと思います。

(岡田)

## 点字から識字までの距離 (三四)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)

### 千葉刑務所見学記 (一)

去る三月二四日の月曜日、千葉市若葉区貝塚町にある千葉刑務所を見学に行った。既に『うか』第二二号で刑務所図書館について取りあげたことがあるが、実際に刑務所図書館を見学する機会を得てとても興味を持って参加した。今回の見学のきっかけは私が編集委員をしている『図書館雑誌』(日本図書館協会発行)の二〇〇二年一〇月号に千葉刑務所長の山口昭夫氏が「受刑者たちの読書」という一文を寄稿して下さったことによる。

見学は図書館問題研究会障害者サービス委員会が企画したもので、事前に見学者の氏名、性別、住所、年齢を刑務所側に伝えての参加申し込み受付があつた。当日午後一時近くにJR千葉駅で待ち合わせ、バスで現地に向かつた。千葉駅からわずか四つ目に「千葉県対ガン協会前」という停留所があり、バスを降りると目の前が千葉刑務所だつた。停留所からは件の対ガン協会は見えず、本来ならば千葉刑務所前という停留所名が付されるのが普通だ

ろう。

そこは国道五一号線沿いの市街地であり、周りを住宅が囲んでいる。敷地はおよそ一二万平米と広大であり、鉄筋の官舎や面会人受付の建物などが敷地入り口から構内までの間にある。構内に入る入り口は赤煉瓦作りで、両脇に二つの塔があり一見お伽の国への入り口のように見える。本館も明治四〇年（一九〇七年）に建てられたイタリア式（と説明された）の赤煉瓦の立派な建物で、一九七一年に改築工事が着工され、一九九四年に完成している。

参加者は一六名の予定だったが、三名が欠席のため一三名が名簿でチェックを受け、各自番号の付いたパスチを受け取って構内に入った。赤煉瓦の建物の奥に庁舎があり、その二階に案内されて、一五分ほどの案内ビデオを見せてもらう。刑務所における日常や作業、命の教育、クラブ活動や運動会などの余暇活動、釈放前教育、そして出所までをまとめたこの案内ビデオを見た限りでは『日本の刑務所』（菊田幸一著、岩波新書、二〇〇二年七月、以下△内はこの本からの引用）で描かれているような、壮絶な場所という印象は受けなかった。

はじめに、配布された「施設のしおり」をもとに千葉刑務所についての説明



がある。

それによると、現在の収容定員は一一三五人、既決囚がおよそ六五〇人、未決囚がおよそ四五〇人収容されている。千葉刑務所はL級でかつA級の受刑者が収容されており、岡山刑務所が同様の受刑者を収容している。

このL級というのは刑期八年以上の者を指し、A級というのは「犯罪傾向が進んでいない者」を表している。全国に五九ある刑務所はそれぞれ収容分類が決められており、例えば最近話題の名古屋刑務所にはF（処遇上配慮を必要とする外国人―処遇上の配慮とは日本語でのコミュニケーションが困難であるということらしい）、I（禁固刑の者）、A（犯罪傾向が進んでいない者）、B（犯罪傾向が進んでいる者）、M（精神障害者）、P（身体疾患・障害のある者）というそれぞれの級の者が収容されている。

この「犯罪傾向が進んでいる者」というのは初犯ではなく再犯以上であるということで、千葉刑務所のように「犯罪傾向の進んでいない者」とはつまり初犯の受刑者ということであるようだ。説明の中で名古屋刑務所は収容者一三〇〇人余りで、その内一〇〇〇人は暴力団関係者であり、あつした事件も起こりやすく、刑務官の立場から見ればやむを得ない側面もある、という話もあった。女性は全受刑者の五％程で、女性だけを収監する女子刑務所に収容されており、全国にある八つの管区のうち仙台矯正

管区と高松矯正管区を除く六つの管区に一つずつある。先の『うか』第二二号で紹介した「私本閲読許可証」の貼付された『竹野内豊写真集』は栃木刑務所の私本だったのだらうと推察される。

このように個々の刑務所によつて收容されている受刑者がそれぞれ違つてゐるために同じ刑務所といつても個々に特徴があるようだ。

しおりによれば、ここ千葉刑務所の場合は初犯で懲役八年以上の者が收容されていて、その内無期懲役が四一・三%、二〇年以上が二一・一%、一五年以上の者が一三・二%、一〇年以上の者が三七・四%、八年以上の者が六〇%とある。罪名は「殺人傷害致死四三・五%、強盗を伴う殺人、致死三一・九%、強姦を伴う殺人、致死二・二%、放火を伴う殺人三・〇%、その他一九・四%」となつており、受刑者六三四人の三分の一以上が無期懲役、四分の三以上が殺人を犯した初犯の者ということになる。

年齢は二一歳から八三歳までで、六〇歳以上が一四・八%、五〇代二五・七%、四〇代二七・一%、三〇代二四・三%、二六歳から二九歳五・七%、二六歳未満二・四%で平均年齢は四六・八歳である。

受刑者には週四〇時間の作業が義務づけられており、作業を行っている六六二人の受刑者の内、紳士靴を作つて

いる革工が九七人(一四・七%)、桐箆笥や御輿、漆工芸品などを作つてゐる木工が四三人(六・五%)、民事局や刑務所関係の機関誌などの印刷に携わつてゐるのが七八人(一一・八%)、配線ボックスやバインダーなどを作つてゐる金属加工に携わる者が五四人(八・二%)、職業訓練として窯業に携わつてゐるのが三人(〇・三%)、その他が二六四人(三九・九%)となつてゐる。ここまでの人数の合計が五三九人で、残りの一二三人は自営といつて炊事、洗濯、掃除、経理、営繕作業など刑務所内の仕事を行つてゐる。作業は企業から請け負つたもの、他、紳士靴や桐の箆笥などは全国矯正展(全国刑務所作業製品展示即売会)や各刑務所で販売されている。ここの桐ダンス、紳士靴、同じ千葉県にある市原刑務所の味噌などは有名だといふ。見学者の中に市原在住の方がおり、年に何回か市原刑務所の味噌の販売会があつて大変な人気だと言つておられた。特に千葉刑務所は長期受刑者が大半を占めるので高度な技術習得が可能なため、このような技術を要する製品を作れるという話だつた。

これらの作業に就くと作業賞与金が支払われるといふ。この作業賞与金にはランクがあり、見習い工から一等工まで十ランクに別れており、八一等工で一時間三四円六〇銭である。一日では、二七六円八〇銭、一か月二〇日就労したとして五五三六円となる。Vこれが八見習い

工では一時間四円九〇銭、すなわち一か月七八四円である。V^入所したばかりだと見習工からスタートし、通常は昇等標準期間である一か月以内に一定のノルマ(基準点)を果たさなければ九等工になれない。順調にクリアしても見習工から一等工になるには三年余かかることになる。V^そして、^二〇〇〇(平成一二)年の一人一か月の平均作業賞与金は、四一四九円となっている。V^という。千葉刑務所の説明では六五〇〇円との話だったので、全国水準を大きく上回っている。長期收容者が多いためだろう。しかし、この賞与金は作業に対する対価ではなく、恩恵として支払われている。この作業賞与金は「釈放時に支給されます。在所中でも、書籍・日用品の購入、家族の生活扶助のためなどに、その一部を使用することが許されています。」としおりに書かれている。

さて、一通りの説明の後、構内を見学することとなった。その際、受刑者の顔をなるべく見ないように、もし目が合ってしまったら何気なく逸らすように、女性(四名)は男性と男性の間に入って歩くように、たばこマッチは持ち込まないように等の注意があった。思わず、ハンニバル・レクターがいるかもしれないと思ってしまった。

一列になって、鍵のかかった鉄の格子戸を開けて構内へと入った。最初に案内されたのは工場で、受刑者がわき目もふらずに作業をしていた。そこではプラスチックのハンガ

ーを扱っていたが、こちらも緊張していて、どういう作業をしているのか確認することが出来なかった。次に案内されたのが図書を扱う建物、書庫であったが、これについては次回まとめて述べる。その建物を出た後体育館を通って舎房に向かったが、体育館には中央に卓球台があつて、その横に二列四〇席ほどの椅子が整然と並んでいた。何のための椅子かを尋ねたところ、風呂の順番を待つために座る椅子だということだった。風呂には夏場は週三回、冬場は週二回入ることが出来るそうだが、^ただし入浴時間は、一五分ぐらいであり、ひどい所では三分(大阪刑務所など)というのがある。V^という。

舎房とは受刑者が寝泊まりしているところで、まず独居房を見せてもらった。中に入ると、ほぼ二畳の畳とその奥に高さ六〇センチほどの白い板があり、板の向こうに洋式の便器があつた。便器の前には棚があり、そこにちり紙が積まれている。入り口の取っ手は外側にあるだけで、内側には付いていない。入り口、窓ともに鉄の格子状の枠があつて、配膳を入れる部分だけが少し空いている。一方雑居房は十畳ほどのところに六、七人が同じ部屋に入るようになつており、やはり板の奥に水洗トイレがあり、部屋の中央窓際にテレビが一台置かれている。両脇の壁にはやはり棚があり、ほとんどの棚には本が置かれていた。特に目に付いたのは辞書のように厚い本がいくつか置かれてい

たことである。ある格子際の机に「独学・・・」というような付票が置いてあったので聞いてみたが、何か一つのテーマを勉強しているようだった。見せて頂いた雑居房には五人が入っているということだったが、鉄の枠を通して全てが見えるようになっており、狭い上に全くプライバシーというものは無いに等しい場所だった。△雑居房では、余暇時間にテレビを集団で観るため、一人だけテレビを観ずに本を読むことは事実上むずかしい。▽という。説明役の刑務官も雑居房で一人本を読むことは、他の受刑者との協調上非常にむずかしいと述べていた。

次に木工の工場に向かったが、工場内にはいると丁度作業を終えたところで、作業着を着替える場所で何人かが作業着を脱いで裸になるところに遭遇してしまった。あわてて外に戻ったわけだが、木工作業ではノミなどの刃物を多用するため、作業服を脱いで裸になり持ち帰っていないことを確認して官衣に着替えるのだ。

次に案内されたのは印刷工場で、そこにはオフセット印刷機や電子組版システムがあり、印刷している人、コンピュータに向かって仕事をしている人などが働いていた。印刷物をちらっと見ると「人」という刑務所新聞を印刷しているところだった。ここでも先の工場と同じく、作業をしている受刑者達は全く話も



せず、自分のやるべきことに没頭し、見学している私達に全く目を向けることなく作業をしていた。何か非常に異様な場面に出くわしてしまった時のような心地の悪さを感じたのは私だけではなかったらう。△懲罰としてこの賞与金が削減されることがある。その懲罰の大部分は、作業中の脇見、不正交談および無断離席に対して科せられるものである。ところが脇見といつても、仕事の材料を取るため横を向いた時、その視線が先まで伸びても脇見だという。受刑者たちは「横を見たい時は、帽子を目深にかぶり、顔を動かさずに目だけを動かす。そのため目つきが悪くなる」と自嘲的という。作業中に仕事のことであっても許可なく一言喋れば不正交談。脇見と不正交談で懲罰房送りになる者が一番多いという。▽賞与金は恩恵であるので、このような些細なことでも没収されてしまうらしい。刑務所でのこの作業というのは、△支払われる金額は報酬の名に値するものではなく、▽△作業の種類を選択することができず▽、△これは、強制就業であり、まさに「奴隷的就業」と呼ぶべきなのではないか。▽こうした事実に関して『日本の刑務所』では、行刑の密行主義と規律中心主義を厳しく批判している。

私たちも構内にいる間、数回号令を耳にしたが、△工場へ行くのも運動場へ行くのも軍隊行進である。▽△両手を前の者の乳の位置まで振り上げ、それ以上高くても低

くてもいけない。V 事実、風呂に入るために体育館に入る受刑者の列を見かけたが、片手にタオルを持って同様の行進が行われていた。

印刷工場の後、既に受刑者たちが風呂へ行ってしまった木工の工場を見せて頂いた。入り口右側の部屋には何列かの棒に等間隔にハンガーが懸けられており、そこで受刑者は一旦裸になり、朝は官衣から作業着に着替え、作業終了時には作業着から官衣に着替える。工場の中央部には出来上がったばかりで、歪みをなくすために上部に重石をのせられた桐ダンスが置かれていた。この桐ダンスの価格は三二万円で、もし一人で作ると一か月と少ししかかるということだ。

また、通路には葛飾区亀有の町会が依頼した製作途中の山車が置かれていた。漆塗りの見本なども陳列されており、その色について質問すると漆の色が限られていることについて技官の方が説明をしてくださった。工場を出る際教育係の説明役の方がこの工場を何人の看守で見ていると思うかと質問された。それぞれ三人とか五人とか答えたが、一名という回答だった。看守役の人は通報用に携帯電話を一台持っているだけで、丸腰とのこと。あとは出口近くに非常用のブザーが一つあるだけだという。二時間間で交代するというこの仕事は非常にストレスのかかる仕事であり、六〇歳の定年を迎えて退職した後、六一歳を

越すかどうか分かれ目で、亡くなる方も多いという。勤務も朝七時半から五時までと八時半から翌朝の八時半までとがあり、半数以上が敷地内の官舎で暮らしているということだった。

木工工場の後、高いコンクリートの塀際を歩いて運動場に案内された。広い運動場の周りには桜が植えられており、手前にはパイプ



式のシヤワーが取り付けられていた。「刑務所の特徴はこの桜の木です。桜が咲くことで受刑者は一年が経過したことを身を持って知るので、ですから日本の刑務所にはどこでも桜や紅葉が植えられています。」と説明された。

その後最初に説明を受けた部屋に戻って、質問の時間をとって頂いたが、重い気分を払拭することができなかつた。ハ一日二四時間が細かな時間割と規則で縛られ、自由なのは、「息をするだけだ」と受刑者がこぼすのも決してオーバーではない。V 率直な感想としてここは自主的に何かを為すということが一切出来ない世界であると感じざるを得なかった。そうした中で、本を読むというわずかに残された自発的な行為がどのようになっているのかを次回報告したい。



# 東洋医学について (九)

## 小池上 惇

診断法(つづき)

### (三) 問診

東洋医学の問診は西洋医学のものとほぼ同じですが、患者の五味、即ち飲食物の好みや偏りについて明らかにして、五臓の病を判定するなど自覚症状を重要視するところに特徴があります。後から出てきますが、発熱についても西洋医学では体温計の数値が上がらないと発熱と認めませんが、東洋医学では、本人が熱っぽく感じれば発熱と認めます。

#### ア 問診事項

姓名・年齢・性別・職業・住所などの一般事項、生活状況、飲食の嗜好、家族の健康状況、今までに罹ったことのある病気(既往歴)・症状の経過(現病歴)・現在の症状(現症)などについて尋ねます。私達視察障害者にとっては触診に次ぐ重要な診察方法の一つです。

#### イ 現症の問診

##### ① 寒熱



寒気や発熱のことで次のようなことについて尋ねます。  
**悪風**：風に当たることを嫌うことです。温かくすると寒気がなくなります。  
**悪寒**：風に当たらなくても寒さを感じるもので、温かくしても寒がります。俗に体がぞくぞくするという状態で、東洋医学的には表証初期に現れる症状です。

**厥冷**：自・他覚的な四肢の冷えて、西洋医学的には自律神経失調症、東洋医学的には虚証に見られます。

**往来寒熱**：悪寒と発熱が交互に来るもので、東洋医学的には半表半裏証に見られます。

**裏熱**：体の表面は暑くなく、内部に熱感のあるもので、裏証に見られます。

#### ② 汗

汗をかくのは虚証、汗をかかないのは実証といわれます。寝汗のことを盗汗といい陰虚証の際に見られます。

#### ③ 痛み

**実痛と虚痛**：痛みが突然起こり、抑えると痛みが増すものを実痛といえます。痛みが長時間続き、抑えると軽くなる痛みを虚痛といえます。

#### ・痛みの部位と証との関係

**頭痛**：後頭部痛は膀胱経、前額部痛は胃経、側頭部痛は



胆経、頭頂部痛は肝経の症状といわれています。

\*その他、腰痛や腹痛についても、部位や性質により侵されてくる経絡が異なります。

#### ④ 味覚

五臓と味覚とは一定の関係があり、酸っぱいものを好む人は肝の変動、甘いものを好む人は脾の変動と考えられます。西洋医学的にも、塩辛いものを食べ過ぎると腎臓を痛め、甘いものを食べ過ぎると糖尿病になるといわれています。糖尿病は、東洋医学的に見ると脾が関係していると考えられます。

#### ⑤ 食欲

食欲がないのは虚証、食欲があるのは実証です。よく食べるが太らず、喉が渇き水を多量に飲み尿量が多くなる状態を消渴病といい、現代医学の糖尿病に当たります。

#### ⑥ 耳・目の状態

問診事項としては、耳鳴・耳聾（聴力障害）・眩暈（めまい）・目の霞みなどがあります。難聴は腎の障害、目の霞みは肝の変動と考えられます。

その他、問診事項としては、大・小便の状態、出血、肩こり、睡眠の状態など三十項目ほどあります。もちろん、その全部について聞くわけではありませんが、表面に現れた症状だけでなく、隠れた症状も聞き出すためには問診の仕方にも注意する必要があります。最近、医療面接の

技法が研究されていますが、その一つに、できるだけ患者自身に話させるという事があります。例えば、「今日はどのようなことで来られたのですか」と聞いたとき、患者が「腰が痛くて来ました」と答えたとき、その時、すぐに「いつ頃から痛くなりましたか?」と聞いたとしますと、患者は「何日前から」としか答えられないこととなります。このような聞き方を、クローズドクエスチョンといいます。そんなとき、「その症状について、もう少し詳しく話してくれませんか」と聞いたとすると、もう少し患者自身で答える範囲が広くなり、「二、三日前重いものを持ち上げようとしたとき、急に痛みだし、その後…」という風に具体的に答えやすくなります。このような聞き方を、オープンクエスチョンといいます。できるだけだけオープンクエスチョンで患者自身に話させ、症状が絞られたところでクローズドクエスチョンに移るのが、理想的な方法と考えられます。しかし、診察時間が限られる現代医学においてはなかなか患者自身に十分に話す機会を与えることが難しいようです。

その他、患者に対して優しい態度で接し、難しい専門用語はできるだけ避けて平易な言葉で話し、患者が理解しやすいように留意することが大切です。そして、ゆつくりと患者の話しに耳を傾けることにより、

病気の陰に思わぬ精神的な悩みが隠されているのが発見されることもあるでしょう。

われわれも、普段の患者の診察で、問診をもっと重視して行かなければならないと思います。

今回は、われわれの最も得意とする切診について書きます。

中 中 中

## ご報告とご案内

### 一 『唐詩選 上』の漢点字版が

完成しました。

吉川幸次郎<sup>こうじろう</sup>・小川環樹<sup>たまき</sup>編集、株式会社筑摩書房発行、『唐詩選 上』の漢点字版が完成し、横浜市立中央図書館に、平成十四年度分として、納入しました。全七巻です。

市内にお住まいの方は同館に申し込んでご利用下さい。他地域にお住まいの方は、最寄りの図書館を通じてご利用下さい。

以下、編者の序文から一部をご紹介します。

この書物は、普通世に行なわれている「唐詩選」、すなわち十六世紀<sup>みん</sup>紀明<sup>りはんりやう</sup>の李攀竜<sup>なんかく</sup>あざなは于鱗<sup>うりりん</sup>が選<sup>えら</sup>び、十八世紀日本の服部南郭<sup>なんかく</sup>がその訓点本を刊行したのが、江戸の世のベスト・セラーズとなり、和歌の「百人一首」といならば地位を占めたそれと、名を同じくするけれども、内容はことなる。

#### (中略)

私が「岩波新書」の二冊とした「新唐詩選」「新唐詩選続篇」は、李攀竜の枠を破ろうとしての小さなころみであった。ここに提供する「唐詩選」も、同じ努力の範囲をひろめる。かくてその内容は、旧「唐詩選」と、全然別である。

#### (中略)

……もはや後の人々の研究を期待せねばならないが、その後の読書で、強く私の心を打ったものが、二つあるのを、やはりこの機会に、書きとめておく。

一つは、しばしば夕陽の美しさと悲しさを歌う李商隱についての瑣事である。五言絶句「楽遊原」、

晩ゆうぐに向かいて意適かなわず  
車を駆りて古原に登る  
夕陽は無限に好ろしきも  
只だ是れ黄昏に近し

この人口に膾炙した詩を、私ももつとも愛する。ついで  
また愛するのは、五言律詩「晚晴」である。

深居は夾城に俯し  
春去りて夏猶お清し  
天意 幽草を憐れみ  
人間 晚晴を重んず  
併せて高 閣のけさを添え  
微ほのかに小窓に注ぎて明らかなり  
越鳥は巢の乾きし後  
帰り飛びて体は更に軽し

(中略)

またかく形無きものへの敏感が、問題は唐を超え中国を超えて、大きく文学全体にもひろがるうが、言語は事実そのままではあり得ず、常に何ほどか、事実に

対して誇張であり虚構であることを、唐の詩人たちに自覚させ、そうした形で言語を使わせているのではないかとも、考える。すべては次の研究者を待たねばならず、私自身はいよいよもって、日暮れて途遠きを嘆ずるばかりである。

昭和四十八年七月末日。

## 二 新しい漢点字訳書

以下の図書が漢点字訳されています。ハード・コピーあるいはローファイブファイル（漢点字電子データ）でご提供できます。

- ① 唐詩選 上…吉川幸次郎・小川環樹編集、株式会社筑摩書房。
- ② 放送大学印刷教材『国文学入門』
- ③ 同『国語学概論』（以上は完成しています）
- ④ 同『日本語の歴史』（完成間近です）



### 三 漢点字講習会について

かねてより計画しておりました視覚障害者向けの、漢点字の講習を、横浜市のご後援をいただいで、実施することになりました。オリジナルのテキストに従って、通信学習をメインに、隔月程度にスクーリングを行いながら、習得していただきます。母語である日本語を使いこなすには、漢字の知識は欠かせません。これまで漢字を知らなくても済ませて来られたことも、インターネットの普及や、個人情報保護など、言葉を避けて通れない事態が到来しております。

初回は六月一五日です。視覚障害者の皆さま、関心をお寄せの皆さま、お待ち申し上げます。費用は、初級コース・テキスト、三千元、月会費六ヵ月分千八百円。

中級コース・テキスト、五千元、月会費六ヵ月分千八百円です。

その他、点字器が必要です。

お申し込みは、五月三十一日までに、お葉書・お電話・メール等をお願い致します。

### 四 漢点字変換プログラムEIBRKWJ、

#### 点字端末BMシリーズについて

①点字端末BMシリーズ（株KGS社製）に、閲覧専用ファイルが登場しました。従来のBMJファイルと同様にコンピュータと交換できませんが、編集は不可能なファイルです。著作権法の規定にある、点字の電子データとして、点字のハード・コピーと同様、著作権者の許諾なしに頒布可能とされるファイルです。

②本会が昨年発表した、EIBRKWで作成する、漢点字の電子データ、EIBFファイル（著作権者の許諾なしに頒布可能な電子データ）から、BMシリーズ用閲覧専用BMJファイル（右参照）が作成できるようになりました。

これは、（株）KGS社様のご厚意によるものです。

③漢点字変換プログラムEIBRKWと、BMシリーズ間に、編集可能なBMJファイルを紹介して、相互交換ができるようになりました。

BMシリーズで、漢点字カナ交り文を作成して、できたBMJファイルを、EIBRKWで

さらに編集したり、テキスト・ファイルを開く  
BRKWでBMTファイルに変換したりできます。

〔注：BMTファイルの編集の可・不可は、拡張  
子・BMTでは区別できません。〕

④この四月から、毎日新聞社で

は、BMシリーズを点字端末に  
使用して、カナ点字の電子デー  
タで、点字毎日の配信を始めま  
した。

右のように、技術的には漢点字  
の電子データでの配信も可能と  
なりました。漢点字使用者から  
のニーズが求められているとも  
言えます。



BM16の写真です

と親睦をはかる。

(2) 漢点字の有用性を広く社会に訴え、その普  
及をはかる。

(3) 漢点字公認の前途に横たわる諸問題につい  
て共通認識を持ち、課題解決の糸口を見出  
す。

2. テーマ…「学ぼう、広げよう、利用しよう」

3. 主催…盲教育に漢点字の導入を進める全国協  
議会

4. 日程と場所…二〇〇三年八月三、四日。芝パー  
ク・ホテル。(電話03-3433-4141)

当日、ZETAの元アナウンサーお二人に、ご講演を  
お願いする予定とのことです。

詳細は、電話・FAX0857-24-9736 (野島静先生)  
へお問い合わせ下さい。

※本会へのご連絡・お問い合わせは、

羽化の会ホームページ

URL:

<http://ukanokai-hp.hp.infoseek.co.jp/>

E-MAIL:

[takeshi-okada@h2.dion.ne.jp](mailto:takeshi-okada@h2.dion.ne.jp) (岡田) <

## 五 鳥取県の野島静先生より、

### 「漢点字フェスタ」開催の

ご案内がとどいております。

骨子は以下の通りです。

漢点字フェスタ二〇〇三イン東京

### 1. 目的…

(1) 全国の漢点字ユーザーが一同に会し、交流



漢文のページ

春望 杜甫（盛唐）

國破山河在

城春草木深

感時花濺淚

恨別鳥驚心

烽火連三月

家書抵萬金

白頭搔更短

渾欲不勝簪

國破れて山河在り／城春にして草木深

し／時に感じては花にも涙を濺ぎ／

別を恨んでは鳥にも心を驚かす／

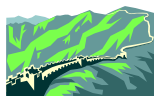
烽火三月に連なり／家書万金に抵る／

白頭搔けば更に短く／渾べて簪に勝

えざらんと欲す

春望…春のながめ。首都長安での作。

中国の町は城壁で囲まれていた。



烽火連三月 家書抵萬金

烽火Ⅱのろし。

三月Ⅱ「さんげつ」と読んで、幾月も 長い間。

家書Ⅱ家からの便り、家族からの手紙。

抵Ⅱ相当する。

渾欲不勝簪

渾Ⅱまったく、すっかり。欲Ⅱここでは「今にも…

になりそう」という推量。

簪Ⅱ冠をとめるためのかんざし、ピン。

（もはや冠をとめるかんざしもさせなくなりそうである。）

※主に、遠藤哲夫著「語法詳解 漢詩」（旺文社）を

参照しました。

# 春 望

國 破レテ 山 河 在リ

城 春ニシテ 草木深シ

感ジテハ 時ニ 花ニモ

濺ギ 涙ヲ

恨ンデハ 別ヲ 鳥ニモ

驚カス 心ヲ

烽 火 連ナリ 三 月ニ

家書 抵ル 萬 金ニ

白 頭 搔ケバ 更ニ 短ク

渾ベテ 欲ス 不ラント

勝へ 簪ニ

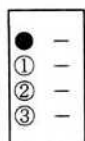
# 漢点字ってどんな字？ 35

つくりになる漢点字、〈傍側基本文字〉（3）

おねえさん  
傍側基本文字について、  
まず復習からね。  
志朗 短めにまとめよう！

## 傍側基本文字の特徴

- 1 主に形声文字の傍になって  
音符の働きをする。
- 2 漢点字では二マスの構成。  
一マス目に④⑤⑥の点  
の何れかが付く。
- 3 離の漢点文字符号が、  
隹（ふるとり）を表すよう  
に、ある漢字の構成のうち  
その符号が代表的な部首を  
表すことがある。
- 4 これらの漢点字の近似文字  
は、原則として、一マス目  
に①②③の点の  
何れかが付く。



未来 前2回に出てきた字  
を、整理してみたわ。

## ◇ 傍側基本文字 ◇

離 (隹 || ふるとり) 井

尹 及 亥 勿

彭 宛 儿 (ひとあし) 亢

兌 凡 舜 几

## ◇ 近似文字 ◇

井 井 井 井 章

及 乃 儿 元

\* 井は近似文字の形の例外です。



おさあ、今日はどの字から？

亦

二二 工 4

音 エキ ヤク  
訓 また

志

接続詞のマタだね。  
「また…」 「…もまた」  
とか読むんだ。



不ニ亦楽一乎 またたのしからずや

未

漢文で使われることが多いみたい。

跡

二二 工 三三

音 セキ シヤク  
訓 あと

足 + 亦

志 何かがあつたあと、何かの出来事  
のあと、とかいう意味だ。

未

足偏がついてるから、もとは  
あしあとのことかしら？  
足跡、筆跡、事跡、遺跡。



跡？ それとも 後？

立つ鳥あとを濁さず

あと取り息子

あと味が悪い



(粕羽、り産卵、手早産卵)

迹

二二 工 三三

音 キ シヤク  
訓 あと たずねる

足 + 亦

未

意味は「跡」とほとんど同じね。

志

あまり使われないから3マスに  
なっているんだよ、きつと。

未

でも、動きがあるのね、  
あしあとを追う、  
昔の出来事のあとを  
追ってたずねる、つて。



# 叟

二二 工  
5

訓 音  
おきな ソウ

志 やせた老人、長老という意味だ。

未 歌舞伎にもある三番叟は、

もとは能樂の「翁(おきな)」の、三番目に出てきて舞う老人のことなんだって。



# 搜

二二 工  
テ 訓 音

ソウ さがす さぐる

手 + 叟  
二二 工  
6

未 「叟」は、もとはこの字の意味だったそうよ。手で隅々までさぐるのね。



志 捜査、搜索のように、さがし求める意味の熟語に使われるんだね。

# 瘦

二二 工  
ヤ 訓 音

ソウ やせる

疒 + 叟  
二二 工  
6

未 やせた老人の意から、病み衰えてやせる意になったのね。

志 長身瘦軀、っていう熟語もある。



# 袁

二二 工  
6

訓 音  
エン オン

未 ゆったりとした衣服の意でそれをまとった姿、ゆったりとした姿態の意なのね。

志 袁世凱(えんせいがい)の「袁」。中華民國の初代大統領だね。



未 「袁」を含む漢字には、「猿」や「遠」や「園」があるわ。

猿

ケ エ

訓 音  
さる エン  
オン

犬 + 袁

遠

ヒ エ

訓 音  
とお、い オン  
とお、さかる

辵 + 袁

園

レ エ

訓 音  
し下がり  
その オン

口 + 袁

志 「遠」はとおく離れる、間をあけて  
ゆったりとしている、の意かな。

未 空間的にも時間的にも、間があいて  
いる感じね。遠慮、遠方、遠近。

志 「園」はかきねで囲われた庭だ。

未 大きな建物と庭とを合わせ  
ていうこともあるわ。  
庭園、公園、学園、陵園。  
陵園というのは、王様の墓よ。



又

エ 下がり  
4

訓 音  
また ユウ  
または

未 もう一つ、かさねて、という意味。

志 右手で何かを持っている  
形を表しているんだね。

未 「又」は部首として、

すごく沢山使われているのよ。  
でも漢点字では省略されたり、  
基本文字の中に入っていたりして、  
もとの漢字に「又」が入っている  
かどうか、よくわからないことが  
多いのね。

志 「支」にも「又」が入って  
いるけど、漢点字ではわか  
らないね。

未 「支」は、折った木の枝  
を手で持っている形ね。



「支」



□ 又を含む漢点字 □

友

ユウウ  
とも

又

双

ソウ  
ふたつ  
ならぶ

又 + 又

奴

ヌド  
やつ  
やつこ



又

桑

ソウ  
くわ

□ 又は又の近似文字 □

志

点字では桑は、植物を表す  
木偏  に、又  だね。



又

又

又

エ下がり  
ア

音 サ  
訓 はさむ  
さす

未 又はY字形のもの、さすまたとい  
う人をとらえるときに使う武器の  
形でもあるのよ。ものをはさんだ  
りとらえたり、そんな意味なのね。

志 三叉路の「さ」だね。

未 又が旁になる字はすぐ少ないけ  
ど、手偏と金偏の字をみつけたわ。

扱

エ下がり  
ア  
テ

音 サイ セ  
訓 さすまた やす  
さす さて

又 + 手

志

先が二つや三つに  
分かれた棒のこと。  
手に持つて使うね。



未

“さすまた”は  
人をとらえる武器で、  
“やす”は魚をとる道具。



この道具で、魚をさしてとる  
ことも、含まれるているのね。

志

知らない字でも、意味を想像でき  
るのが漢字のいいところだね。

未

でもこの字は、なぜか  
「さて」と、文を改める  
ときにも使うのよ。



志

うーん、漢字は奥が深い…。

釵

エ下がり  
ア  
音 サイサセ  
訓 かんざし

金 + 又  
釵

志 二股に分かれた金のかんざしだ。



未 知ってる？

中国の清時代の小説の『紅樓夢』だけど、主人公の奥さんになる人の名前、宝釵(ほうさ)っていうのよ。



志 それって、詳しくすぎない？

追加します！  
冢は宛の近似文字



お 前回の「宛」の近似文字に、「冢(つか)」を付け加えておきましょう。

冢

宛

宛  
音 チョウ  
訓 つか

志 冢は、丸く盛った土饅頭、お墓のこと。大きいとか重いか、重要などという意味にも使われるんだ。

塚

音 チョウ  
訓 つか

土 + 冢  
塚

未 塚も同じような意味ね。

志 日本ではこの方が一般的だ。一里塚とか蟻塚のように、お墓という意味でなく、土の盛り上がりを言うのにも使われるよ。

未 人の名前にもよく使われているわね。



(作 岡田・絵 吉田)

# 横浜漢点字羽化の会規約

## 第1章 総則

### 第1条 名称

本会は、横浜漢点字羽化の会という。

### 第2条 場所

本会は、以下の所に本部を置く。

〒231-0851 横浜市中区山元町2丁目105番地

### 第3条 目的

本会の目的は、以下の二つである。

(1) 本会は、漢字体系の触読文字である『漢点字』で表わされた点字の資料を製作して、『漢点字』を必要とする者にそれを提供する。

(2) 本会は、任意のボランティア団体として、(1)の活動を通して、日本語の標準的な表記法である『漢字仮名交じり文』を、視覚障害者の文字である点字に実現されるべきことを一般の認識に求め、『漢点字』の普及に努める。

### 第4条 活動

(1) 本会の活動は、以下の3つを柱として行なわれる。

- 1 漢点字の資料に関する要望を募り、それを製作する。
- 2 古典・辞書等、基本的に不可欠な文献資料を選択し製作する。
- 3 学習教材として必要なものを選択し製作する。

(2) 本会は、主に横浜市社会福祉協議会ボランティアセンターを活動場所として利用する。

## 第2章 会則

### 第5条 会員

(1) 本会は、横浜ならびにその近在に居住する者で、漢点字訳をボランティア活動として希望する者、および本会の活動を支援する者によって構成される。

本会の会員は、以下の2つからなる。

#### 1 一般ボランティア会員

ボランティア活動として、漢点字書を製作し、必要な者に提供する。その方法は、主としてパソコンによる漢点字訳である。

#### 2 賛助会員

本会の活動、ならびにその理念に賛同し、財政的援助を通して本会を支援する。

1と2を兼ねることはできる。

(2) 入会および退会は、希望するものが随時入会、退会できる。

## 第6条 運 営

会の運営は、代表ならびに若干名の幹事、会計によって行なわれる。代表ならびに幹事、会計は総会において会員の互選により選出され、任期は1年とする。ただし、再任はできる。代表、幹事、および会計によって、幹事会を構成する。

## 第7条 総 会

その年度の初めに、総会を行なう。総会は、出席会員によって成立する。総会は前年度の活動報告、決算報告と当年度の活動計画及び予算計画の審議、決定を行なう。

## 第8条 例 会

毎月1回、原則として15日に、全体の例会を行なう。例会は、活動等に関して話し合い、研究し、報告される場である。

## 第9条 会 計

(1) 会計の運営は以下の3つからなる。

- 1 一般ボランティア会員による会費
- 2 賛助会員による会費
- 3 助成金

会計年度は、4月1日から翌年3月31日とする。

## 第10条 会 費

(1) 会費の種類  
会費は、通常会費と臨時会費に分けられる。通常会費は、以下の納入規定により定められる。臨時会費は、幹事会の承認を経て徴収される。

(2) 会費の納入

- 1 一般ボランティア会員は、通常会費を月額300円とし、毎年4月、10月に6ヵ月前納する。
- 2 賛助会員は、1口1000円とし1口以上とする。  
ただし、一般ボランティア会員で途中入会の場合は、当該半期の残り月数に月額を乗じたものを前納する。

(3) 既納会費は、前払いを含め返還しない。

## 第11条 規約の改正

規約は会員にはかり改正することができる。

附則

1996年6月15日制定  
1997年7月15日改定